

西北地区「お茶会」

2月10日（月）、西北公民館で開催された西北地区の「お茶会」には、40人を超える高齢者の方々が参加されました。

お茶会では、はじめに小田原市消防本部（予防課）の職員の方から、家の防火対策のあり方についてお話があり、そのあとに昼食会とレクリエーションゲームが行われました。



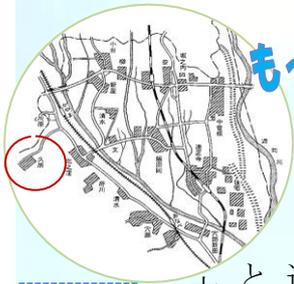
皆で楽しい昼食会



座ったままで軽体操

昼食は、お弁当と手づくりの味噌汁、ようかんなどのデザートがふるまわれ、参加者は大満足の様子でした。

昼食が終わると折り紙、軽体操、合唱にくじ引きと盛りだくさんのレクリエーションゲームが行われ、笑顔あふれる楽しい交流が繰り広げられました。



もっと知りたい!

わがまち富水

久所

富水再発見!

・位置：富水地区の最西端、箱根山のふもとに位置します。

・「久所（ぐぞ）」について：古老によると、安土桃山時代の頃、七人の武者がこの地に入り定住したそうです。きっかけは小田原北条氏が豊臣秀吉に滅ぼされたことにあるのではないかとのこと。一方、中村郷（足柄上郡中井町）にも「久所」があります。頼朝を助け鎌倉幕府成立に貢献し、平塚から小田原、湯河原までを支配した豪族中村一族の地です。ここには役所としての『公所（ぐぞ）』がありました。江戸時代初めの古文書によると地名はすでに『久所（ぐぞ）』に変わっていました。諸説ある中で、これからのことから小田原北条氏に仕え中村郷を郷里とする武者達が新しい安住の地を「久所」と名付けたとの異説も、また大いにあり得る事でしょう。（前久所自治会長宮原さんより）

久所についての資料は、小田原市自治会総連合ホームページ「富水」の項で見ることができます。

地域の資産

久所沢の湧水『泉』と道祖神（府川 487付近 道祖神のある小路の奥に泉）



道祖神の小路と泉のある崖（車道から）



洞から湧き出でる清水



右：文字碑「道祖神」と微かに

小田原西部丘陵・諏訪の原台地の北麓、久所自治会内に『久所沢』と呼ばれる小さな谷間がある。その谷間の崖に向かうと、清らかな流れに遭遇する。流れを辿った先、そこには崖の懐からの美しい湧水—神秘的な『泉』があった。水際の芹は瑞々しく、夏には蛍も飛び交うという。小さな異空間の中でしばし『“サンクチュアリ(聖域)”(前出・宮原さん談)』の感にひたった。何十年ぶりという大雪の数日後、まだまだ一面の雪の中に、その存在を主張せんばかりに、それでいて静かな風趣ある道祖神の佇まいが心をうった。